群教セ	G01 － 02
	令 2.275 集
	国語－小

伝えたい情報を集め、情報と言葉を結び付けて文章表現ができる児童の育成

――「見付けた」言葉カード、「使いたい」言葉選び、伝えようシートの活用を通して――

特別研修員　網中　佳穂里

Ⅰ　研究テーマ設定の理由

はばたく群馬の指導プランⅡでは、国語科において、様々な場面や状況において課題を見いだし、その解決に向けて、意識的に言葉のもつ意味やつながりに着目させ、言葉の特徴や使い方等を理解させるとともに、多様な言葉を使って自分の思いや考えを広げ深めるための指導の充実が求められている。

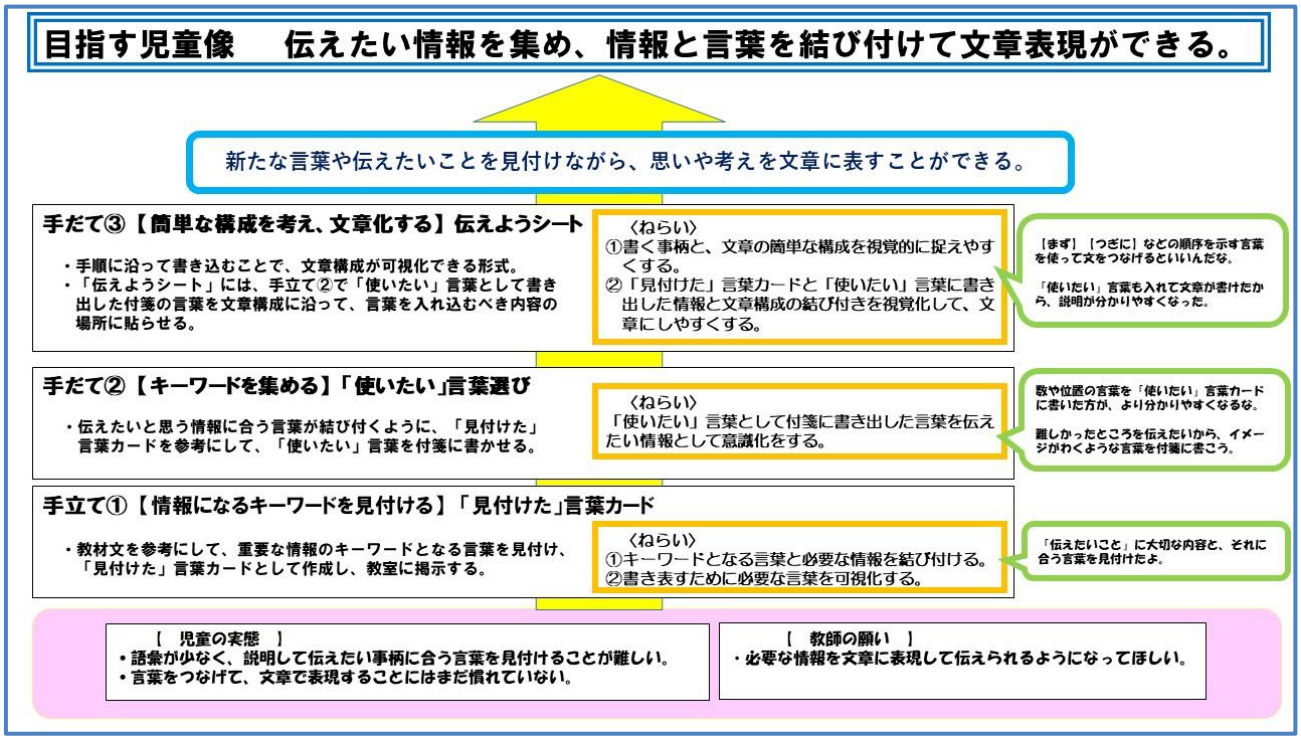
本校の児童の多くは、調べたことを記録したり、経験したことを作文に書いたりする書く活動において、相手意識や目的意識とともに「伝えたい」という自分の思いをもって活動することができる。しかし、伝えるべき情報を十分に見付けられなかったり、適切な言葉を使って書き表せなかったりする様子が見られる。これは、書くことを考える構想の段階で、経験と言葉を結び付け、書く情報を集めながら情報を伝えるための適切な言葉を見付け、思いや考えを明確にすることに課題があるからと考える。

確かな学力の定着につなげるためには、思いや考えを明確にすることが必要である。また、書く活動の中で、自分自身や対象とする物事や相手と向き合って、言葉を通して考えることや、多様な言葉や表現の方法を獲得していくことが必要である。

そこで、思いや考えを明確にするために、書く事柄や思いを表す言葉を情報として集めるための働きかけを行うことが有効であると考える。さらに、情報として集めた言葉を文章化するための働きかけを重視していくこととし、上記のとおりテーマを設定した。

Ⅱ　研究内容

１　研究構想図



２　授業改善に向けた手立て

【手立て１】情報になるキーワードを見付ける「見付けた」言葉カード

教材文・例文から、重要な情報のキーワードとなる言葉（例：順序、数、位置、向き、方法などを示す言葉）を学級全体で見付け、「見付けた」言葉カードとして作成し、教室に掲示する。

ねらい①　キーワードとなる言葉と必要な情報を結び付ける。

ねらい②　書き表すために必要な言葉を可視化する。

【手立て２】キーワードを集める「使いたい」言葉選び

伝えたいと思う情報と結び付いているキーワードを、「見付けた」言葉カードを参考にさせて、「使いたい」言葉として、付箋に書き出させる。

ねらい　「使いたい」言葉として付箋に書き出した言葉を、伝えたい情報として意識付けをする。

【手立て３】簡単な構成を考え、文章化する「伝えようシート」

手順に沿って書き込むことで、文章構成が可視化できる「伝えようシート」を作成させる。「伝えようシート」には、手立て２で「使いたい」言葉として書き込んだ付箋を、文章構成に沿って言葉を入れ込むべき場所に貼らせる。

ねらい①　書く事柄と、文章の簡単な構成を視覚的に捉えやすくする。

ねらい②　「見付けた」言葉カードに書き出した情報と文章構成の結び付きを視覚化して、文章にしやすくする。

以上の手立てを通して、児童は、新たな言葉や伝えたいことを見付けながら、思いや考えを文章に表すことができる。

Ⅲ　研究のまとめ

１　成果

○　「見付けた」言葉カードを作成、掲示し可視化することによって、言葉と情報の結び付きが分かりやすくなり、児童は「順序、数、位置、向き、方法」などの必要な情報を取り入れて説明文を書くとよいことに気付くことができた。

○　「使いたい」言葉を選ばせ、重要だと思うことを伝えるための言葉を集めたことが、下書きを書くための材料集めとなり、スムーズに下書きにつなげることができた。

○　「伝えようシート」によって、説明文の適切な構成に沿って、全員が説明文を書き上げることができた。また、「使いたい」言葉として選んだ言葉を取り入れて文章にすることで、伝えたい情報が明確な説明文になった。

○　説明文を書き上げて、伝えたい相手に紹介することを通して、相手に伝えたいことが伝わる喜びを感じることができ、情報と言葉を結び付けて文章表現をすることのよさを実感することができた。

２　課題

○　「伝えようシート」に貼り付けた付箋に書き出した「使いたい」言葉を、実際に文章にするときに、文章に入れ込めていない児童もいた。付箋の言葉を文作りでうまく活用できるようにする手立てが更に必要である。

○　学年に合ったキーワードと情報を結びつけ可視化する「見付けた」言葉カード、文章構成を可視化するための「伝えようシート」を作成したが、可視化の方法は児童の発達段階や学習状況に応じて工夫する必要がある。

○　キーワードとしての言葉をたくさん集め、語彙を増やすことはできたが、逆に、自分にとって必要な情報が広がりすぎて選びきれない児童もいた。提示するキーワードの数や項目を絞るなどの工夫も必要である。

実践例

１　単元名　「馬のおもちゃの作り方　おもちゃの作り方をせつめいしよう」（第２学年・２学期）

２　本単元について

本単元「馬のおもちゃの作り方　おもちゃの作り方をせつめいしよう」は、馬のおもちゃの作り方の説明の工夫を読み取り、読み取ったことを生かして、生活科で作ったおもちゃの作り方の説明書を書くという単元である。本単元では、教材文を読みながら実際に馬のおもちゃを作り､おもちゃの説明をするために必要な事柄、順序を示す言葉、写真や絵、数値などを書き入れることのよさに気付くことができる。児童は、手順に沿っておもちゃの作り方や遊び方を説明する文章を書く活動を通して、情報と情報の関係を理解し、事柄の順序に沿って簡単な構成の仕方を理解することができる。以上のような考えから、本単元では、以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	自分の思いや考えが明確になるように、おもちゃの作り方や楽しみ方を説明する文章を書く活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。 ア　おもちゃの作り方や楽しみ方を説明するためには、材料、作る手順、楽しみ方や注意事項などの情報と情報の関係について理解すること（知識及び技能） イ　おもちゃの作り方や遊び方の説明書を書くために、材料、作る手順、楽しみ方や注意事項などの順序に沿って簡単な構成を考えること。（思考力、判断力、表現力等） ウ　説明に必要な事柄や事柄の順序に沿った構成のよさを認識するとともに、思いや考えを伝え合おうとすること。（学びに向かう力、人間性等）
評価規準	(1) 材料、作る手順、注意事項、遊び方の順序など情報と情報との関係について理解している。（知識・技能） (2) 「書くこと」において、材料、作る手順、注意事項、遊び方の順序に沿って簡単な構成を考えている。（思考・判断・表現） (3) 事柄の順序に沿って粘り強く構成を考え、学習課題に沿っておもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

過程	時間	主な学習活動
つかむ	第１時	・説明書を作成する学習計画を立てる。
追究する	第２・３時	・教材文を読み、実際におもちゃを作り、説明文の書き方の工夫を見付ける。
	第４時	・既習の観察記録文と教材文を比較し、馬のおもちゃの作り方の説明文の特徴を見付ける。
	第５・６時	・教材文や体験したおもちゃ作りから作り方を分かりやすく伝える言葉を見付ける。
	第７時	・必要な情報となるキーワードを書いた付箋を基に、言葉や言い方を付け加え文章にしておもちゃの作り方の説明書の下書き「伝えようシート」を作成する。
	第８時	・清書をする。
	第９時	・お互いに書いた説明文を読み合う。
まとめる	第１０時	・説明書を書いて学んだことや今後の生活に生かせそうなことを伝え合う。

＊生活科「おもちゃを作ろう」の単元と関連させる。

３　本時及び具体化した手立てについて

本時は、全 10 時間計画の第７時に当たる。本時に至るまでに、第５・６時では、教材文とおもちゃ作りの体験から、作業の順序を示す言葉、作業をより詳しく伝えるための数値や位置、向き、方法などを表す言葉や言い方などを見付け出し、教材文に印を付けた。また、おもちゃ作りの体験からも言葉を見付けて、下書きを書く時にこれらの言葉を参考にできるように、学級全体で「見付けた」言葉カードに書き表し、教室に掲示した（図１）。

図１「見付けた」言葉カードの作成

次に、生活科で作ったおもちゃの簡易な作り方を「伝えようシート」（図２）のメモ欄に書き込ませた。そして、「見付けた」言葉カードを基に、順序や注意するポイント、難しいポイントが伝わるような言葉を「使いたい」言葉として選び、付箋に書き出させ、それらの言葉を書き加える「伝えようシート」のメモ欄の脇に貼らせた。

本時では、①まず、つぎに、それから、さいごに、これでの順序を示す言葉②作り方のメモ③付箋に書かれた作るポイントになりそうな事柄に合う言葉が書き出された「使いたい」言葉を結び付けながら「伝えようシート」を完成させる。

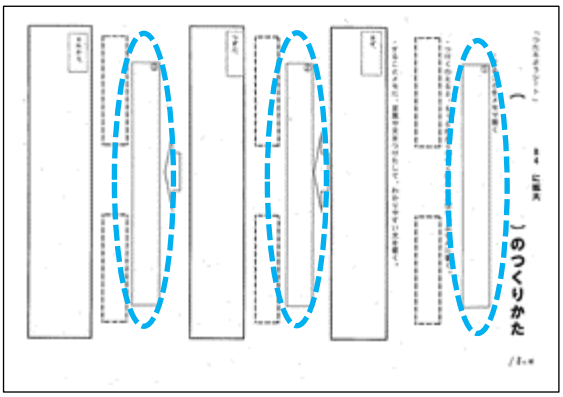


図２　伝えようシート（水色点線枠はメモ欄）

本時の授業改善に向けた手立て

○　手立て①【「見付けた」言葉カード】

教室に掲示し、導入の段階で、必要な情報になりそうな事柄と、言葉カードにある順序、数、位置、向き、方法などを示す言葉の結び付きを振り返らせる。

○　手立て②【「使いたい」言葉選び】

「伝えようシート」に示された文章の構成に沿って、必要な言葉が書いてある「使いたい」言葉が書き出された付箋を貼ることにより、伝えたい情報を意識付けさせる。

○　手立て③【伝えようシート】

・　順序の構成を明確にするために、「見付けた」言葉カードを基に、順序を表す言葉を書き込ませ、順序の構成と順序を表す言葉を視覚的に結び付けさせる。

・　おもちゃの作り方の説明書の構成（材料、作る手順、注意事項、遊び方が書く事柄）と順序の構成を枠と矢印で示し、視覚的に捉えやすくする。

・　作り方を端的に示した文に、「使いたい」言葉を書き加えるイメージを可視化する。文章に結び付けやすくする。

４　授業の実際

(1)　前時までの手立てに係る活動

「見付けた」言葉カードを作るときには、教材文の中で、説明がわかりやすくなる工夫として、「つぎに、それから、さいごに、これで」などの順序を示す言葉や数、位置、向き、方法、目的などを示す言葉に着目させた。「見付けた」言葉カードを基にキーワードを「使いたい」言葉として付箋に書くときには、説明書に書き加える言葉の例として、「見付けた」言葉カード以外の言葉でもよいことにした。児童が付箋に書き込んだ言葉は、同じおもちゃを説明しようとしていても違いが見られた（表１）。

表１　児童が書き出した「使いたい」言葉

	「使いたい」言葉
ロケットポン	いっぱい、まんぱん、ひと回り、しっかり、米むすび、ふさぐ、１番上だけ、穴があいたらやりなおす
くるりん	１こ、四つ、４回、大きい、中くらい、小さく、カッターで、三角に、長く
コロコロコロン	手で、10ｃｍ、長丸、一つ、テープで、つつの中、長四角に、電池が入るくらい、電池にそう、電池が出ないように、たてに、一つ貼る、角と角を合わせて、はさみで、ぴったり
魚つり	たこ糸で、わりばしのはじを、魚にぴったりに、先っぽに、
ヨットカー	外側に、真ん中に、端っこに、きりで、すきまに、四つ、まっすぐに、～のよこを、上に、大きい、四角
とことこカメ	よこに、２こ、かるこで、大きく、二つ、まっすぐ、輪ゴムが通るくらい、３回まわす、がんじょうにするから

(2)　本時の「つかむ」過程において

本時のねらいを確認した後、教室に掲示してある「見付けた」言葉カードを使って、情報と言葉の結び付きを想起させた。

また、「使いたい」言葉を付箋に書き出したときに考えたことを発言させて、必要な事柄と使いたい言葉の結び付きを想起させた。

(3)　「追究する」過程において

作成の順序ごとに、前時までに書き込んだ作り方のメモに、「使いたい」言葉をキーワードにして、より詳しく作り方を説明する文を「伝えようシート」に書いた。図３のように、ある児童は、メモにある「がようしをきる」に、付箋に書かれた「でんちにそる（う）」「カッター」をキーワードにして、「がようしをおきます、がようしのはじに、かんでんちをおきます。かんでんちにそって、はさみかカッターできります」と説明文を書いた。文頭には、順序を示す「まず」の言葉を使った。

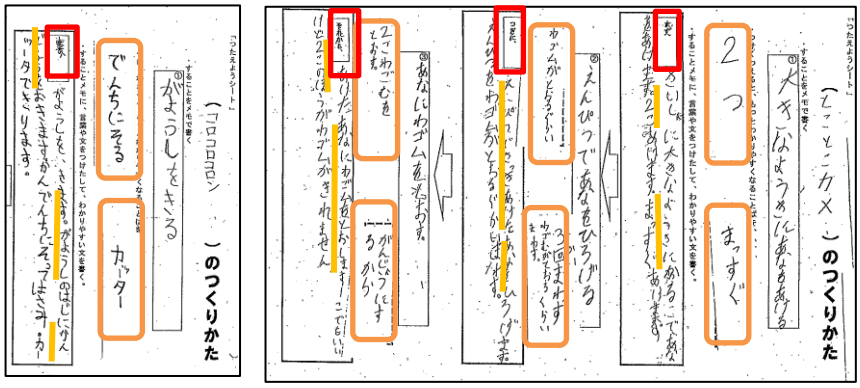


図３　伝えようシートの記述例（赤枠は順序を示す言葉、オレンジ枠は付箋）

より詳しい説明文を書いた後に、ペアで読み合いをさせて、読み手に分かりやすく伝わる部分を見付けさせ、線を引かせた。その後、読み手に分かりやすくなる表現について、全体で共有した。

(4)　「まとめる」過程において

児童の振り返りでは、「わたしのとなりの席の子が、わたしのいい文をみつけてくれたのでよかったです」というような記述も書かれていた。

(5)　本時後

第９時と第 10 時の間に、生活科「おもちゃフェスティバル」で、説明書を実際に１年生に紹介した。中には、読んであげる箇所を指でなぞりながら、１年生に説明している姿もあった（図４）。

図４　１年生に説明文を紹介する様子

単元全体の学びを振り返る第 10 時での児童の記述は、以下のようなものがあった。

- １年生が集中して見てくれてうれしかったです。
  分かりやすくかけてよかったです。
- まず、つぎに、それから、さいごに、これで、を使って、また書いてみたいです。

５　考察

「見付けた」言葉カードを作成する際、自分が見付け出した言葉をとてもうれしそうに掲示する様子が見られた。低学年の児童にとって、自分の体験を説明する時に、どのような言葉があり、どのような場面で活用して使えばいいのかを実感している様子であった。自分自身が見付け出したという実感は、「もっと、他の言葉を使ってみたい」「使ったことのない新しい言葉を使ってみたい」「もっと、自分の伝えたいことがより伝わるような言葉を見付けてみたい」などの言葉に対する興味や表現する楽しさにつながったようであった。さらに、児童それぞれで、見付け出したり表現に用いたりした言葉に違いがあったことから新たな驚きや様々な表現の楽しさに気付いたようであった。付箋に書き出したキーワードも、「見付けた」言葉カードを参考にして、おもちゃの作り方に必要な情報となる数、位置、向き、方法、目的などを示す様々な言葉が使われており、語彙を増やすことができたようであった。

「伝えようシート」を活用しての文章作成は、キーワードを付箋に書き出したことでスムーズになった場合と、キーワードを生かしきれていなかった場合が見られた。要因として、２文節３文節になった場合の言葉の配置や助詞の使い方、２文３文に分ける文の分け方等が分からなくて、文章に出来なかったことが想定できる。複数の言葉を用いた文の組み立てや文章を作成するための手立てを講じる必要がある。併せて、文作りに慣れるような学習の積み重ねを続けていくことが望ましいと考える。